

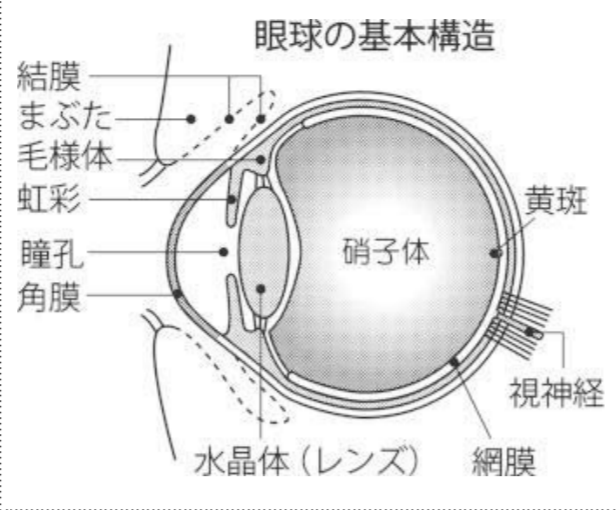
「目の愛護デー」(10月10日)を前に、福岡県眼科医学会などの主催による第27回「目の健康講座」目を大切にして豊かな暮らしをテーマにした。市の民約350人が参加して福岡市・天神のアクロス福岡で開かれた。第一部では、福岡県眼科医学会副会長の皆良田研氏を座長に、山口大学大学院の園田康平教授が結膜炎や角膜炎など前眼部に起こる病

目の健康講座

気について講演。第二部は、同県眼科医学会会長の荒川哲夫氏を座長に、失明にもつながる緑内障や黄斑変性など目の奥の部分の病気について、京都大学大学院の吉村長久教授が講演した。共に実際の症例を交えながら、病気の原因やメカニズム、最新の治療法などを解説。早期発見・早期治療のためにも、眼科検診が大切だと語った。



「目を大切にして豊かな暮らし」をテーマに開かれた「目の健康講座」



福岡県眼科医学会理事 **林 研氏**

角膜炎が混濁したり、形状異常になったりしたら、角膜を移植するしかありません。角膜は、血液の流れがない組織で、誰とも適合性がありません。また五つの層からなっており、昔は5層全部を移植していましたが、近年は悪い部分だけ、例えば表

目が見えない人に光を

アイバンク登録のお願い

面から中央の層まで、逆に角膜の一番内側の膜だけを移植するなどの角膜の悪いところだけを替える移植法が進んでいます。しかし、残念なことに角膜移植を希望する方は非常に多く、角膜炎の患者数がとても不足しています。十分な手術ができない状況にあります。ぜひ多くの方にアイバンクに登録していただき、目が見えない人に光を取り戻してあげてほしい。

目を守り、より良い人生

山口大学大学院医学系 研究科眼科学教授

園田 康平氏



そのだ・こうへい 1991年、九州大学医学部卒業。97年に米国に留学、ハーバード大学スケバンズ眼研究所研究員。その後、九州大学大学院医学研究科眼科学准教授を経て、2010年10月から現職。専門は眼炎症疾患、免疫学。

第一部講演 もしも目が赤くなったら

充血に隠れる重大疾患

ぶどう膜炎 ベーチェット病に治療薬

皆良田 園田教授は目の炎症性疾患の専門家、最新の治療法に興味深いお話を聞かせる。園田 目が赤くなる＝すなわち充血する病気には、失明に至るような重大な疾患が隠れている。そのリスクに病気を発せると結膜炎(①)角膜炎(②)白内障(③)緑内障(④)ぶどう膜炎(⑤)脈管炎(⑥)網膜炎(⑦)が挙げられる。赤血球は炎症を起こしている状態でも、痛みや腫れを持つ。その一方で、網膜に適切な時期に適切な治療を処方してあげれば、予防もできる。細菌による淋菌性結膜炎は、乳幼児に感染しやすいので、きっちりと治療してほしい。アデノウイルスなどウイルス性結膜炎は、感染力が強い。

●光を失うことも

次に角膜炎。角膜は、黒目の部分を覆う透明なフィルム。角膜が赤くなると、目を赤くし、痛みや腫れを生じ、視力を失う可能性がある。また、角膜の透明性が失われると、目の奥に炎症が起る。これをぶどう膜炎と呼ぶ。ぶどう膜炎は、目を赤くし、痛みや腫れを生じ、視力を失う可能性がある。また、角膜の透明性が失われると、目の奥に炎症が起る。これをぶどう膜炎と呼ぶ。

京都大学大学院 医学研究科教授

吉村 長久氏



よしむら・ながひさ 1977年、京都大学医学部卒業。米国マウントサイナイ医科大学訪問助教授、大津赤十字病院眼科部長、信州大学医学部教授などを歴任。2004年から現職。専門は加齢黄斑変性、黄斑疾患、網膜硝子体疾患。

第二部講演 中高年の目の病気

長寿で増える黄斑疾患

予防にサプリメント有効

荒川 吉村教授は、中高年に多い加齢黄斑変性など目の奥の部分の病気について、最新の治療法をお聞きしたい。

吉村 高齢化が進み、100歳まで生きる時代になり、昔はなかった病気に気がつく。眼圧が高いことも低いことも多い。日本人は、眼圧が正常な正常範囲内に多く、近視や糖尿病の人でも近視眼圧が高くなる。近視眼圧が高くなるのは、眼圧が高い人の治療は眼圧を下げて、少しでも進行を遅らせることが基本。病気の進行に応じて点眼薬や内服薬、点眼薬の副作用や薬の副作用など、手術を行う。最近では、眼圧を下げ、少しでも進行を遅らせることが基本。病気の進行に応じて点眼薬や内服薬、点眼薬の副作用や薬の副作用など、手術を行う。